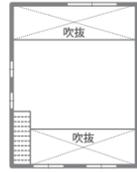


special house



1F



2F



3



1



5



4



8



7



6

1. 奥さまお気に入りのダイニングキッチン。無垢の床材は、樹齢200〜300年の木からとれる、長い一枚板を使っています。
2. 長い軒と、広い縁側が目を引き外観。外から見ると、ナチュラルでモダンな平屋に見えます。
3. 玄関から続く通り土間。ここからリビングへ直接上がることができます。
4. 家の東側、南側にある広い縁側。子どもの遊び場として、また夕涼みや昼寝などつろぎの場所として大活躍です。
5. 広い玄関には地元の松が使われています。造り付けの下駄箱にも、大工さんの確かな技術を感じます。
6. 寢室として使っている和室。東側の窓からは、田園の向こうに美しい羽床富士が見えます。
7. ヒノキをふんだんに使った応接間。お客さまを香りでおもてなし。
8. 応接間から家の奥へと続く廊下。木のさわやかな香りに包まれます。



中2階まで吹き抜けになったリビング。12畳の広さがあり、大勢の人が集まれます。大きなテーブルは池田工務店の作です。

「香川の家」2014年冬春号掲載

株式会社池田工務店

企業情報-P309

> 1邸Housing data

家族構成 / 5人家族  
 竣工 / 2013年6月 構造 / 木造軸組工法  
 延床面積 / 221.11㎡ (67坪)  
 1F / 187.62㎡ (56.85坪)  
 2F / 33.49㎡ (10.15坪)  
 土地 / 約96坪 (家族所有)

にぎやかな声が聞こえてきます。

家が建ててから、とにかく人が集まるようになったそうで、「私や妻の友人も集まるし、子どもの友だちもたくさん遊びに来ます。多いときは10人くらい遊びに来ていますよ」と目を細めるご主人。1邸からは、今日も

そのリビングは、畳と板間のミックス。杉を使った板間は、直接ゴロンと寝転がっても気持ちいいように、凹凸のある浮造(つくり)という仕上げをしています。リビングの横は、奥さまがお気に入りのダイニングキッチン。料理が得意な奥さまは、作業台のあるキッチンを選びました。作業台のおかげで効率が上がり、たくさんの料理も以前よりラクに作れるそうです。

特徴的なのは、中2階のスペースです。いわゆる屋根裏にあたる場所ですが、屋根を高くして、二つの部屋にしています。1階を住空間としてゆったり使い、中2階を倉庫として使おうアイデアですが、現在は、お子さんが遊び場として利用しているそうです。リビングに繋がる窓を通して簡単にコミュニケーションがとれます。

東に羽床富士を臨む高台に建つ、木の組み合わせが美しい中2階の家が1邸です。昔ながらの古い農家を現代的に解釈した1邸には、懐かしさ、今では逆に新鮮な工夫が随所に取り入れられています。広い玄関から足を踏み入れると、出迎えてくれるのがさわやかな木の香りです。建材をほとんど使わず、ほぼ国産の木材だけを使って建てたそうで、壁も珪藻土など自然材が中心。木と自然材のあたたかな雰囲気、居心地のよさを生み出しています。おもしろいのは、玄関の土間が隣にあるリビングの下まで延びていること。これは「通り土間」という昔のスタイルで、大勢の人が集まっても、気軽にリビングに上がることができます。

東

に羽床富士を臨む高台に建つ、木の組み合わせが美しい中2階の家が1邸です。昔ながらの古い農家を現代的に解釈した1邸には、懐かしさ、今では逆に新鮮な工夫が随所に取り入れられています。

special house CASE

111

昔の農家を現代的にアレンジ。自然素材を使って建てた中2階の家。

日本の風土に適した昔の農家。その良さを取り入れつつ、国産の木材で建てた家には、たくさんの人が集まる魅力があります。